

令和6年度 自己評価書・学校関係評価書

令和7年3月11日
真庭市立北房こども園
園長 横田 朝子 印

1 北房こども園の教育保育目標

○教育・保育目標

『心身ともに たくましく心豊かな子どもの育成』

○明るく元気な子ども ○友達と遊べる子ども ○考える子ども

2 本年度の重点目標（課題）

本年度の研究テーマ（重点的に取り組むこと）

「違いを大切に共に育つ場を～人・物・事 三つの観点で援助を見つめなおす～」

○ “のびのび” 安心して生活できる環境づくり

- ・ 保育者との愛着関係、信頼関係を基盤とした一人一人の居場所づくり
- ・ 自分も友達も大切にしながら学び、育ちあう関係づくり
- ・ 個々の発達段階や経験等に配慮した基本的生活習慣の定着
- ・ 人権や危機管理意識向上のための職員研修

○ “わくわく” 夢中になって遊び込める環境づくり

- ・ 個々の興味や関心に応じた遊びの環境づくり
- ・ 個の育ちから集団の育ちへとつながる教育、保育
- ・ 体を動かす活動への園内環境の再構成や園外環境の利用
- ・ 飼育栽培活動等の体験活動の充実
- ・ 資質向上のための職員研修

○ “にこにこ” 様々な人と関わる環境づくり

- ・ 生活や遊びの場での異年齢児交流の仕掛けづくり
（異年齢児交流「わくわくタイム」や「お手伝いタイム」等）
- ・ 小中学校や地域の方との交流事業の実施
- ・ 地域学校協働活動事業の積極的活用
- ・ 園外活動への参加

○ 小学校への円滑な接続

- ・ 小学校や関係機関（発達発育支援センター、保健師等）と連携
- ・ 「アプローチカリキュラム」の実践と見直し

○ 家庭・地域とともに育てる

- ・ 信頼関係の構築
- ・ 北房学園運営協議会との連携
- ・ 教育、保育活動についての発信（ホームページの充実、コドモンの活用）
- ・ 子育て支援の充実（未就園児園開放、子育ての不安等に対する相談）

3 本年度 北房こども園 学校評価（自己・学校関係者）評価

評価指標	考 察	園総合評価 (自己評価)	評価委員評価 (学校評議員評価)
教育課程・ 指導計画	園の教育保育理念、目標を理解して指導計画を立て、記録や振り返りをしながら保育の改善に努めた。五感を刺激する環境構成については、園内外の自然環境も取り入れながら工夫する余地があるとする。	3	3
行 事	年齢ごとの発達段階を考慮した行事の持ち方を工夫した。それぞれの年齢のねらいを明確にしながら実施し、園児にとってどんな体験ができるのかを考え、育ちをポイントにして見直しを行っている。	4	4
組織・運営	経営計画をベースに職員一人一人を尊重し、それぞれの得意なことが活かせるように、組織作り・園運営をしてきた。職員が積極的に自分の役割を果たし、運営に関わっているという意識を持てるよう風通しの良い職場環境を創っていきたい。	3	3
学級経営	一人一人の園児に寄り添い、内面理解を保育の基本としながら温かい人間関係を構築し、自己発揮できる場を作っている。	4	4
特別支援教育	今年度の職員研修として特別支援教育を中心に取り組み、一人一人の困り感を理解しながら援助や環境作りをしている。丁寧に保護者との話し合いをもち、関係機関との連携も図りながら進めている。	4	4
安全管理・ 保健指導	園児が安全・健康に互いに気持ちよく過ごすための必要な約束など、発達段階に応じて知らせたり考えたりできるようにした。園内の安全点検を定期的に行い、災害や事故を想定して職員研修を行い職員の資質向上に取り組んだ。避難訓練、交通安全指導も毎月行っている。	4	4
研修 (資質向上)	園外研修への参加やテーマを設けた園内研修を計画的にしている。課題がある時には臨時の園内研修も必要に応じて行ってきた。(1月現在 園外 72回、園内 17回)	4	4

情報提供・ 保護者・ 地域との連携	園児送迎時の対話や連絡帳、懇談により、保護者と、園児の育ちを共有し、共に喜んだり課題について一緒に考えたりしてきた。今年度はこども園だよりや HP に加え、各クラスからコドモンによる配信も行った。絵本読み聞かせ、行事への参加など、地域の方に協力していただくことで、職員以外の方と触れ合うことができ園児の体験が広がった。計画的な個人懇談に加え、必要に応じて個別面談を行い連携を図っている。	4	3
小学校との接 続・連携	協働活動を中心に交流活動を例年通り実施できた。小・この合同研修を活かし、今後は交流の質の向上のため互恵性のある活動を計画していきたい。また、スムーズに就学につながるように園からの積極的な情報提供、相談を行った。	3	3
子育て支援	お便りや掲示による情報提供や、保護者も一人一人違うことを意識して、必要な時に安心して相談のできる関係づくりに努めている。	4	3
食育の推進 (給食)	野菜栽培を通して、育てることや食すことの喜びと美味しく食べられることへの感謝の気持ちがもてるようにしている。また、栄養士が話をする機会をもったり、毎日の給食を写真掲示し、保護者と子どもが食材や献立を話題にしたり等、食事に関心が向くようにしている。	4	4
食事の提供 (調理)	職員は衛生管理、体調管理をして、安全に調理できるようにしている。アレルギー児や特別な配慮を要する園児も喜んで食べられるように、調理担当者が工夫を凝らしている。行事等で、園児とのコミュニケーションを図ることでより給食を楽しみに、感謝して美味しく食べることができるようにしている。	4	4

4 その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価 (自己評価)	評価委員評価 (学校評議員評価)
信頼される職員	園職員として、正しい言葉遣いや態度に気をつけるよう意識し、明るい挨拶と笑顔の対応を心がけている。しかし行き届いていない部分もあり、職員の接遇研修をし、意識の向上をしていきたい。	4	3

健康な心と体	職員自身の感染予防に努め、体調に留意し、健康な状態を保つようにしている。また、信頼関係を軸に協力することができるよう、各自が職員間の良好な人間関係作り心がけることができるように、風通しの良い職場環境を創っていきたい。	4	4
--------	--	---	---

5 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

- 職員は幼児理解を基盤にして、園児一人一人が安心して自己を発揮し、落ち着いた生活が送れるように日々の保育を意識して行ってきた。温かい雰囲気の中で、個人差を受け入れ、発達段階を考慮しながら生活習慣の自立を促し、「できた」ということが自信につながるように認めたり励ましたりしてきた。園児と職員との信頼関係も深まり、遊びや生活に主体的に関わろうとする園児の姿が見られるようになってきている。
- 園児の感性を刺激できるような環境づくりについては、動植物の飼育栽培をすることで、命について考えたり、自然界の不思議や厳しさを感じたりすることができた。また、夏ならではの水遊び、冬の雪や氷に触れて遊ぶこと、いろいろな自然物に触れ、その形や色を遊びに取り入れるなど季節に応じた環境構成をしてきた。半面、職員の中では「十分ではない」「もう少し工夫できる」と考えている姿もある。日々の生活の中で、職員自身が園児と一緒に楽しい、うれしい、おもしろい、悲しい等いろいろな感情を共有して過ごすことも園児にとっては心地よい環境である。職員の資質向上、教材研究など職員研修を工夫していききたい。
- 園児が興味をもち、してみたいくなる、挑戦したくなる、遊びこめる環境を構成するため、自ら選んだ遊びについて担任を中心に検討会議を設けて環境構成をしてきた。同じ環境の中で年齢によって異なるねらいをどう達成するか、どう援助を考えたらよいかを共通理解することに課題が残る。
- 終礼等で、学年を越えて子どもの良さや成長を共有できている。情報共有ができることで、担任以外の職員も、登降園時に保護者へ具体的なエピソードなどを交えて成長を伝えることができているように思う。
- 協働活動を中心に様々な地域の方と触れ合う活動ができた。職員とは違う地域の方の暖かな心遣いや気持ちに触れることは園児にとっても心地よく、心が動く体験をすることができた。これからも地域の方を含め、園外の方の協力をいただきながら様々な人と関わる事のできる直接体験を増やしていきたい。
- 小学校との連携について、年長児以外にも交流を増やしてほしい。
- 職員の挨拶について研修等で徹底してほしい。
- 共働きの夫婦、核家族の家庭が増えている中で、保育園が担う目的というのは増えている状況でありにもかかわらず、先生方は意欲的にもっとできることがあるはずだと仕事に向き合ってくれている。保護者の視点から見ると、第一目的である“安全に子どもを預けられる環境“というのはクリアしていて、さらなる“豊かな心を育む”ということをもっとできないかと思案してくれている姿勢がうかがえ、とても心強い。
- 自然や行事などを通じていろいろな体験をして感性を育てているので、子どもも興味を持ちやすくなっている。今後はそれを発信という形で伝えていかれたら、先生方はこんなふうにして感性を

育てている、子どもはこんな体験をしているのだということが保護者に分かってもらえて、コミュニケーションの材料の一つになるのではないのでしょうか？

○食育についてとても力を入れてくださっている。給食の写真が玄関に貼ってあり、情報が伝わりやすい。

○行事や作品なども展示したり、写真で発信したりしたらいいのではないかと思います。

6 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

○小学校との交流については、ねらいと内容を考慮しながら、他年齢にも広げていければと来年度の計画を検討しています。

○職員の挨拶等については今年度職員研修で接遇マナーについて確認しました。「している（つもり）」ではなく、相手にきちんと「伝える」「届ける」気持ちと態度を全職員が意識して行えるようにしていきます。

○園からの発信について、日々の園児の様子をコドモンの活動報告でお知らせする取り組みを今年度より始めました。写真等を用いた伝わりやすい内容構成を工夫していけるようにしたいと思います。